

県が選定した施設について

<商業施設>

| | | |
|-------------------------|--|--|
| 施設名 | ハルネ小田原 | |
| 所在地 | 神奈川県小田原市栄町1-1-7 | |
| 施設イメージ |   | |
| 施設概要 | <p>小田原駅東口にある地下街。飲食店や生活雑貨店のほか、地域情報を発信する街かど案内所やイベント・スペース（ハルネ広場、うめまる広場）などからなる商業施設。</p> <p>主要フロアである地下1階の広さは、店舗部分：約2,015㎡、公共地下歩道部分：約2,100㎡</p> | |
| 募集内容 (募集テーマ) | 交通案内に要する案内所スタッフの負担軽減と施設情報の効果的な発信 | |
| 施設課題と 課題解決後 の施設の姿 | 課題 | 目指す施設の姿 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 交通案内に要する案内所スタッフの工数削減の必要性 ● 地下歩道の通行者に対する施設情報の効果的な発信の必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 案内ロボットを利用し、多言語による交通案内を提供することで、案内所スタッフの交通案内に要する工数を削減したい。 ● 交通案内業務の効率化により空いた時間で、地域情報の収集・発信や店舗やイベントへの誘客に資する活動により多くの工数を投入することができるようにしたい。 ● 施設の営業時間外も交通案内を提供できるようになることで、観光客の利便性や施設のイメージ向上を図りたい。 ● 案内ロボットが音声や音楽、手振りなどを通じて通行者の注目を集めるとともに、ロボットを通じて店舗やイベントの情報を発信したい。 ● ロボットによる情報発信を通じて、施設のブランディングやイメージアップを図りたい。 ● トイレや店舗案内などの定例的な問い合わせは案内ロボットが対応できるようにすることで、街かど案内所のスタッフの工数を削減し、スタッフが施設情報の発信や誘客により多くの工数を投入することができるようにしたい。 |

<娯楽施設>

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 施設名 | サープラ横浜あそびタウン | |
| 所在地 | 神奈川県横浜市都筑区中川中央1-25-1 ノースポート・モール6階 | |
| 施設イメージ |  <p style="text-align: center;">施設正面</p> |  <p style="text-align: center;">クレーンゲームエリア</p> |
| 施設概要 | 横浜市営地下鉄センター北駅前に立地する複合商業施設「ノースポート・モール」内に入居しているゲームセンター（床面積：約3300㎡）。世界最大級のクレーンゲーム街として、500台以上のクレーンゲームを設置している | |
| 募集内容 （募集テーマ） | 効率的な床清掃業務の実施とエンターテインメント性を加えた清掃ロボットの運用 | |
| 施設課題と 課題解決後 の施設の姿 | 課題 | 目指す施設の姿 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 広範なエリアを対象とした効率的な床清掃の必要性 ● エンターテインメント性のある清掃業務の必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 清掃ロボットを利用し、広範な施設を効率的に清掃できるようにすることで、スタッフの床清掃に要する工数を削減したい。 ● 清掃業務の効率化により空いた時間で、床清掃以外の業務やフロアスタッフの応援により多くの工数を投入することができるようにしたい。 ● 清掃ロボットにエンターテインメント性を加えることで、清掃業務も「面白くする」というブランディングを図りたい。 |

<文化施設>

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 施設名 | 鈴廣かまぼこ博物館 | |
| 所在地 | 神奈川県小田原市風祭 245 | |
| 施設イメージ |  <p style="text-align: center;">ワークショップスペース (3階)</p> |  <p style="text-align: center;">休憩スペース (3階)</p> |
| 施設概要 | 箱根登山鉄道風祭駅の近接エリアで、箱根の玄関口として鈴廣かまぼこ株式会社が運営する「鈴廣かまぼこの里」にある、かまぼこの歴史や職人の技、手づくり体験などができる3階建ての博物館 | |
| 募集内容 (募集テーマ) | 床清掃業務に要する工数の削減とスタッフの負担軽減 | |
| 施設課題と 課題解決後 の施設の姿 | 課題 | 目指す施設の姿 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 食べこぼしなどによる床の汚れに関する清掃の自動化の必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 限られた時間内では行き届かなかった清掃業務に対し、閉館後から翌朝までの時間帯に清掃ロボットを運用することで、3階フロアの床清掃の省力化、自動化を図りたい。 ● 食品の手づくり体験を開催する施設であるため、どのエリアも常に衛生的な状態に保たれているようにし、床の食べこぼしや床のヒールマークの汚れなどが、閉館時間中に清掃ロボットにより取り除かれ、翌朝にはキレイな状態になっているようにしたい。 ● 館内スタッフが清掃業務に要していた工数や身体的な負担を軽減し、来館者への接客やより付加価値の高い業務に専念できる職場環境の整備につなげていきたい。 |